

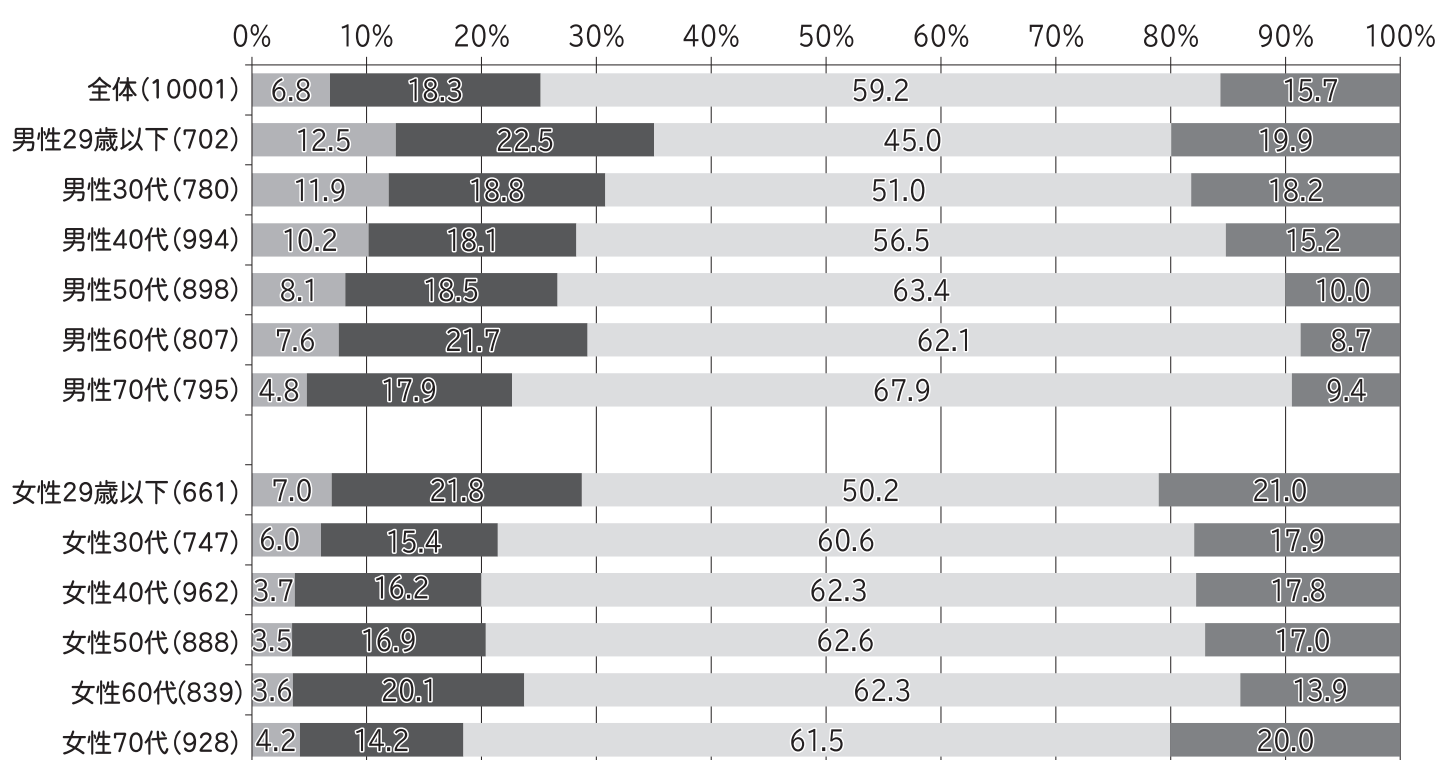
SDGsに対する生活者の意識と旅行についての調査

JTB総合研究所まとめ

SDGsの認知度(理念、ゴール、ターゲットなど) 性年代別(単一回答)

(JTB総合研究所)

■ SDGsの理念、ゴール、ターゲット、指標など、詳しく知っている ■ SDGsの詳細は知らないが、17のゴールは知っている
 ■ SDGsという言葉を見たことがあるという程度 ■ SDGsは知らない・聞いたことがない



若い世代の認知度 二極化

調査は昨年12月17〜21日にインターネットアンケート形式で実施。全国に居住する18〜79歳の男女1万人を対象に事前調査を行った上で、2021年までの3年間に1泊以上の国内旅行をした3千人を対象に、観光や観光地の持続可能性について旅行者の意識などを把握する本調査を行った。

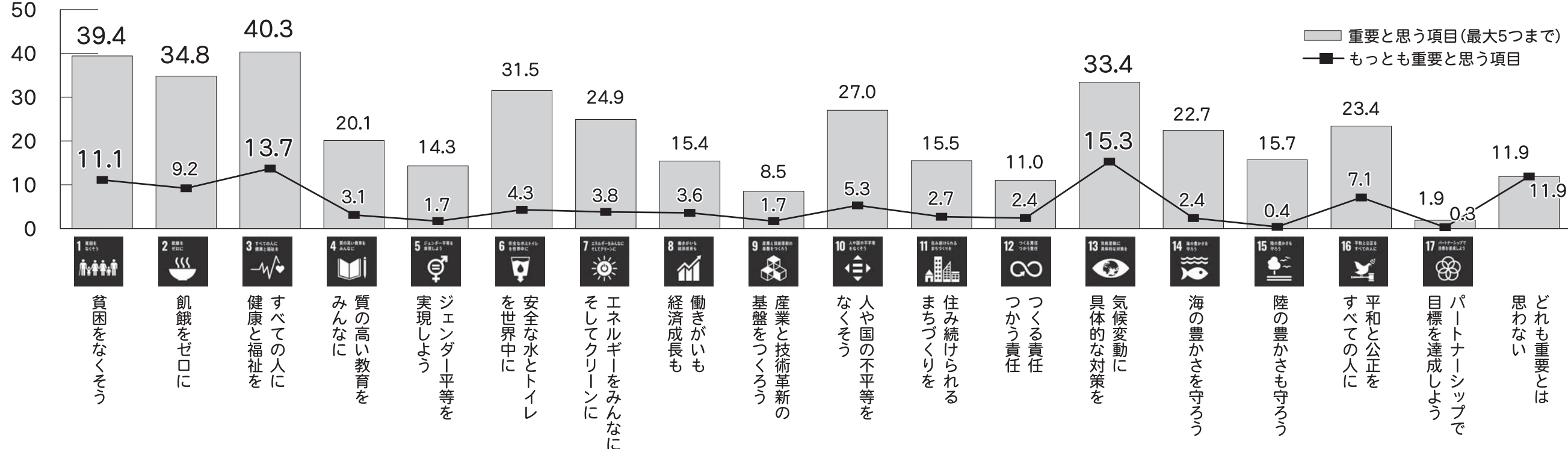
SDGsの認知度について性年代別に見ると、「SDGsの理念、ゴール、ターゲット、指標などを詳しく知っている」「SDGsの詳細は知らないが、17のゴールは知っている」という回答は、20代・30代が最も多く、40代・50代は減少傾向が見られた。

一方で、「知らない」という回答は、旅行中のSDGsに関する行動で、意識的に実践していること、今後実践したいことについて、SDGsを構成する17のゴールについて、重要な場所・時間帯の訪問を避ける(33.4%)、一泊旅行(32.5%)、土産品(32.5%)、化粧品(32.5%)が多かった。特に化粧品は31.7%で3番目に多かった。

日常生活でのSDGsを意識した行動については、「最も多かったのが、最も多かったのが「レジ袋・包装紙の削減」(57.8%)、「旅行・観光のSDG食品の削減」(57.8%)、次に「リサイクルや持ち帰る」(55.6%)、これも、その地域の行動が自らSDGsの概念に直結するからというより、むしろ「宿泊施設での予約サイトを通じて、施設がサステイナブルな行動が多くなったこと」(26.5%)など、行動が多くなったもの

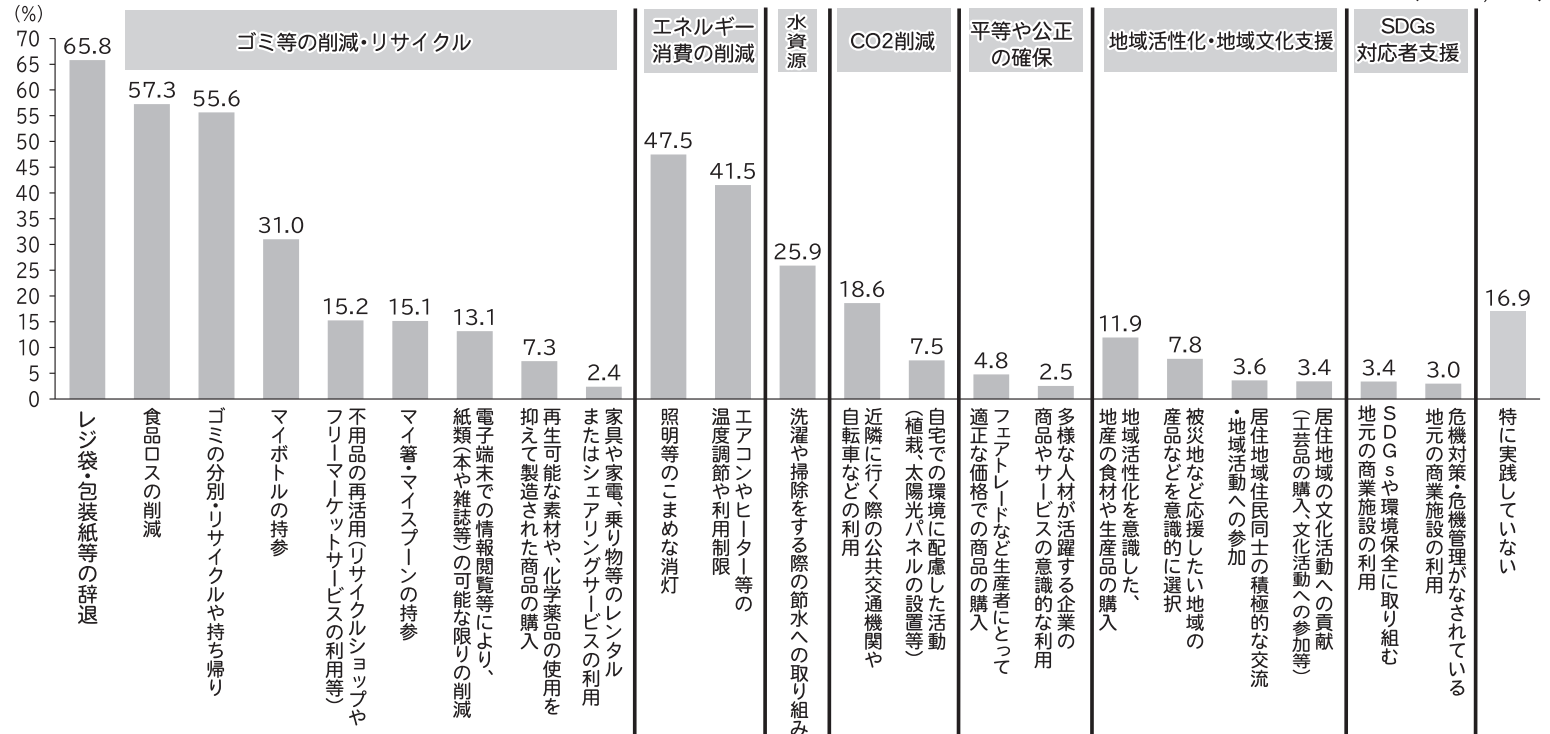
SDGsの17のゴールに対する重要性の意識について(複数回答)

(JTB総合研究所) (n=10,001)



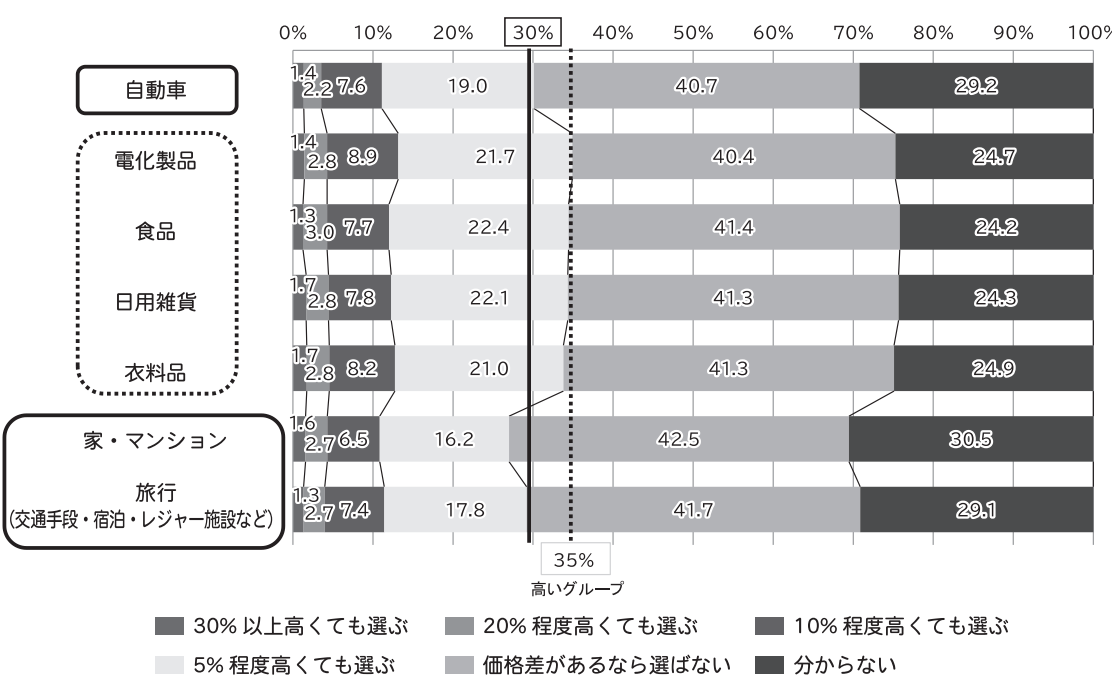
日常生活における、SDGsや環境保全につながる行動の実践率(複数回答)

(JTB総合研究所) (n=10,001)



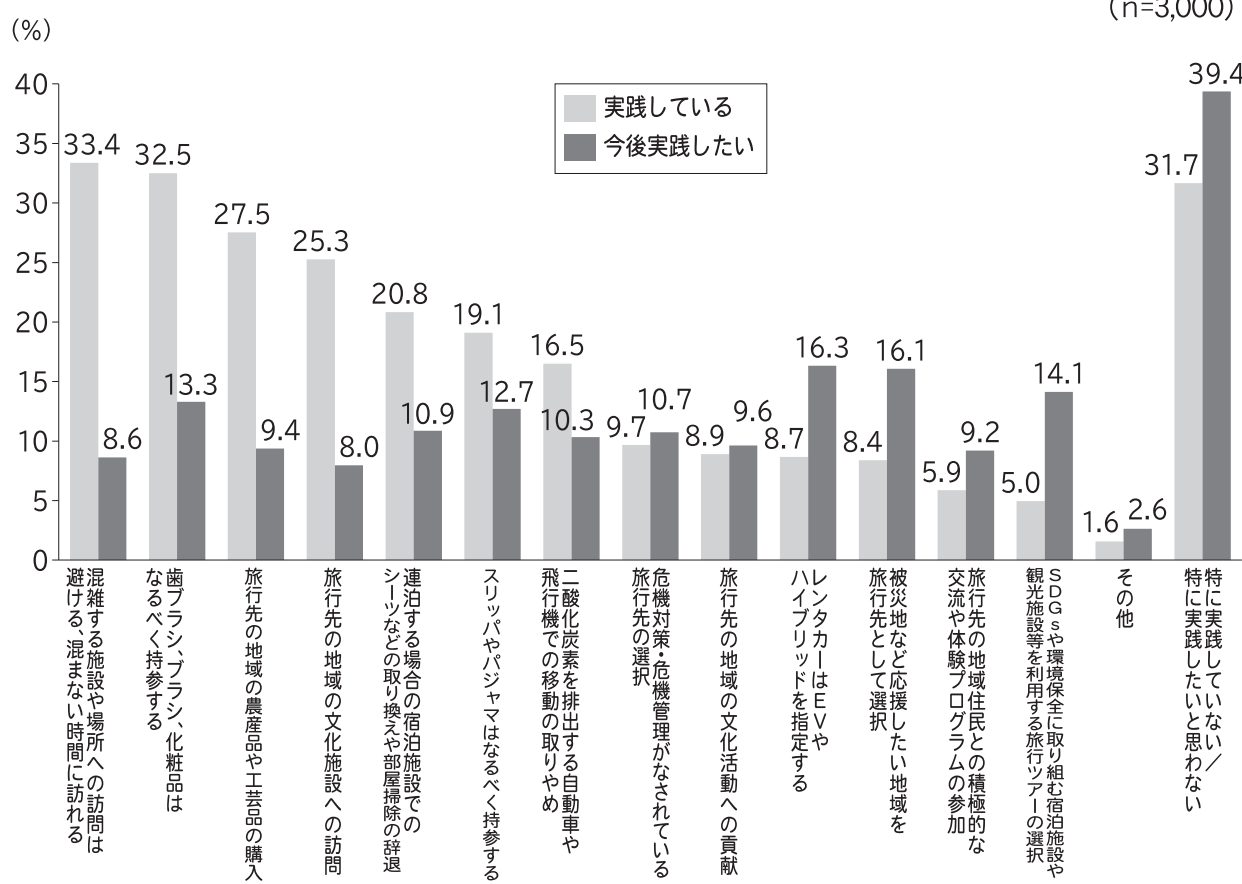
SDGsの取り組みを重視した商品やサービスの購入意向と価格への意識(単一回答)

(JTB総合研究所)



旅行中におけるSDGsに関わる行動に対する実践度合いと今後の意向(複数回答)

(JTB総合研究所) (n=3,000)



旅行中でのSDGsを意識するために、地域や商品サービスの提供側に希望するもの(複数回答)

(JTB総合研究所)

